

**インドネシア国スラウェシ地域でのCDMプロジェクトにおける
日本政府承認の取得について**

当社は、地球温暖化防止に向けた取り組みとして、インドネシア国スラウェシ地域における小水力発電による温室効果ガス削減プロジェクトに参加することとし、本年6月、国土交通省、経済産業省に対し日本の企業が参加するCDM_(※)プロジェクトとしての日本政府承認申請を行っていましたが、7月5日、日本政府承認を取得しましたのでお知らせします。

本プロジェクトは、鹿島建設株式会社(本社:東京都港区, 社長:中村満義氏)とFFEL社(ファルージャ フートラ エネルギー ルーワウ社, 本社:ジャカルタ, 社長:Gunawan Onie(グナワン オニー)氏)とともに案件の発掘や、現地での技術調査等から進めてきたものです。

この度開発する水力発電所は規模が小さく、発電事業のみでは採算の取れないものでしたが、これまで当社が培ってきた水力発電に関する技術を活かし、現地調査や計画・設計の妥当性審査等を行った結果、CDMプロジェクトとすることで事業性が認められることが確認でき、実現に至りました。

本プロジェクトから得られるCO₂排出権については、約5万tを期待しており、昨年7月に締結した売買契約により、全量、当社が買取る予定です。

今後、インドネシア政府の承認を取得した後、国際連合の定める手続きを進め、CDMプロジェクトとして正式に登録を行う予定としています。

なお、このように案件の発掘から進めるCDMプロジェクトの日本政府承認取得は、昨年秋に発表したインドネシアパワー社との小水力発電プロジェクトに続き、当社では2例目となります。

※CDM:クリーン開発メカニズム

先進国が開発途上国と共同で、開発途上国内で実施した温室効果ガスの排出削減プロジェクトにより生じた削減量について、先進国の削減量に充当する制度。

一方、先進国同士が共同で実施した温室効果ガス削減プロジェクトにより生じた削減量について、当事者間で分配する制度は「JI(共同実施)」と呼ばれる。

以上

【添付資料】

 別紙1: [プロジェクトの概要](#)

 別紙2: [クリーン開発メカニズム\(CDM\)プロジェクトの流れ](#)[PDF:75KB]

プロジェクトの概要

1. 名称

ランテバラ小規模水力発電プロジェクト

2. 概要

インドネシア国南スラウェシ州ランテバラ村の水路に、1,200kWの水路式小型発電機2基を設置し、年間発生電力量約1,600万kWhの電力を得るものです。

発生電力は南スラウェシの電力系統を通して全量インドネシア国営電力公社(PLN)に販売される計画であることから、火力発電所の焚き減らし効果によるCO₂排出量の削減が期待できます。

3. 発生排出権量

約10,000t-CO₂/年

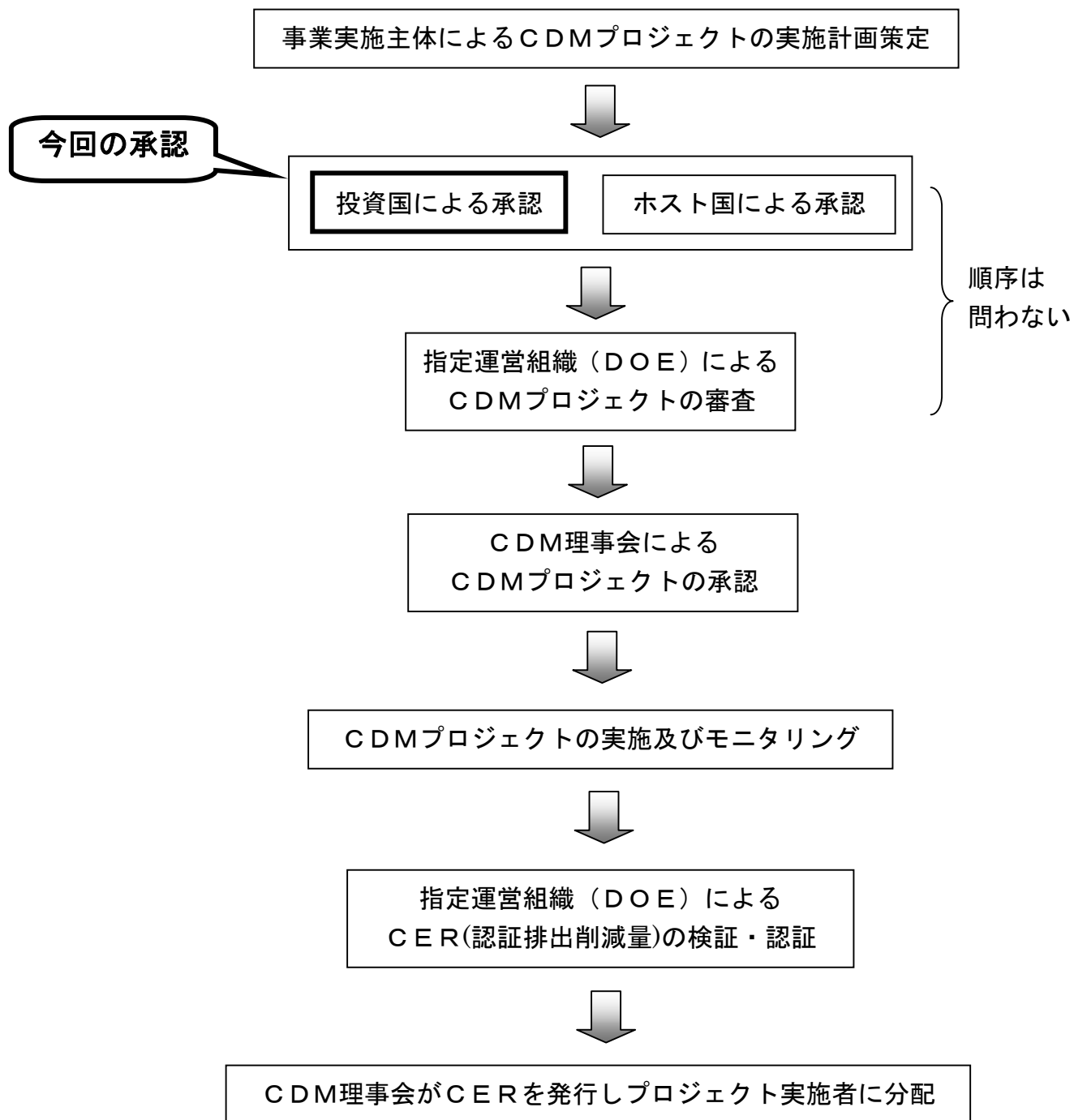
4. 事業開始時期

2008年7月

5. プロジェクト地点



クリーン開発メカニズム（CDM）プロジェクトの流れ



※指定運営組織（DOE）：CDM理事会が認定する第三者機関